



ニュースレターの概要

このニュースレターは、平成27年度に開催された「全国生涯学習ネットワークフォーラム」の後継事業として、震災からの復旧・復興や地域課題に取り組んでいる県内の関係者等の情報を共有し「学びをひろげ、つなげる、いかす」ため、年に2回発行するものです。

また、皆様方からも、日常的な取り組みや様々な企画のもと実施されたイベント等、生涯学習に関する情報ならどんなものでも結構です。多種多様な情報をぜひ当課までお寄せください。

今後も、互いに情報を共有し合い、継続的な取り組みが推進されるよう積極的につながっていきましょう。

心のよりあじふじふ 「愛都路の会」

田村市都路町古道地区の女性を中心となつて、縁の下の力持ちになりたいたいの思いから、イベントの協力やお年寄りへの食事の提供、居場所づくりなどの活動を平成の初め頃から行っている。

今回は、平成26年にオープンした「よりあい処華（はな）」を訪ねた。加藤リツ子会長さん（写真右）、今泉富代さん（写真左）から話を伺った。



愛する都路のために 自分にできることを

12人のメンバーでスタートした愛都路の会は、これまで様々なイベントでボランティア活動を行っている。都路マラソン大会でランナーの疲れを癒そうと自主的に無料の汗を提供したり、主催者から声をかけられたイベントで子ども達に無料でかき氷を出したりと自分たちができることを行ってきた。今では、地元都路だけでなく田村市全域からイベントといえれば愛都路の会というところで声をかけられるようになった。

そんな活動が認められ平成27年には福島県社会福祉協議会より感謝状が贈られている。人の役に立てることとはうれしいことであり、今後も力の続く限り頑張っていきたいと話されていた。

居場所づくりで 元気づくり

震災前は、地域のお年寄りのためにお弁当や食事の提供をしてきた愛都路の会は、震災をきっかけにお年寄りが気軽に集まれる居場所づくりにも取り組んでいる。

原発から20km圏内の住民が避難することになった時には、避難しているお年寄りたちと、船引町の応急仮設住宅の集会所でつるし雛を作り大変喜ばれていた。

避難が解除されてからは、地元で



切り取ってきた藤の木につるし雛や布で作った藤の花がつけられている

みんなが集まれる場所をつくろうと空き家となっていた築100年以上の

古民家を再生し「よりあい処華（はな）」を開いた。愛都路の会メンバーやお年寄りたちがつるし雛を作ったり、お客さんに限定15食でランチを提供したりしている。つるし雛は、布を切って縫うだけの状態にしてあるため、参加者はおしやべりをしながら楽しい時間を過ごしている。また、制作したつるし雛をよりあい処華に展示したり、田村市のイベントに出品したりしていることも参加者のやりがいにつながっている。

継続は、力

続けることが

中学校の子供たちのためにどの思いで始まった愛都路の会の活動は25年以上継続している。震災・原発事故による避難などもあったが、その思いは「人のためにできることを」「誰かの役に立ちたい」とスタート時から全く変わっていない。また、お年寄りやイベントだけでなく学校とのかかわりが新たに加わるなど地域から頼りにされる大きな存在となっている。今後は後継者を育て引き継いでいくことが大切となってくる。今は仕事を持っているため、すべてに参加することは難しくても仕事を辞めてから本格的にできるよう下支えを私たちがしっかりやっていた。いと会長さんたちは語っていた。



愛都路の会制作のマスコット「みゃーこちゃん」

教育の町・ひろの 「ふるさと創生大学」

広野町は、成人、高齢者に積極的な社会活動参画、教育の習慣化、自己研鑽の場などを促進し、生涯学習の推進・発展させるために平成27度から「ふるさと創生大学」を開校している。

その中では、帰還した町民がふるさと広野町の中で多様化する社会生活や環境・家庭生活に対処できる学びの場となるよう町と関わりのある方を講師に年4回の講座を行っている。

今回、広野町生涯学習課 総括主任主査 兼係長の芳賀 弘美氏に、講師や講義内容の選定、今後の展望などについて話を伺った。



魅力ある講座づくり

講師は地域の人材を

平成27年度からスタートした「ふるさと創成大学」では、同じ年に広野町に開校した福島県立ふたば未来学園高等学校の先生方や町の英語指導助手、元国土交通省河川局長の町職員など、広野町に関わりのある方を講師にお願いしている。特にふた

ば未来学園については、町民の関心も高く2年連続で校長先生に学校のPRもかねて講義をしていただいた。3年目となった今年は、ふたば教育復興応援団としてふたば未来学園に関わっている劇作家の平田オリザ氏を講師に迎えている。

講座のテーマは

住民の関心とニーズから

広野町では町民の8割が帰町している。(平成29年7月末現在) ふるさと広野町でよりよく生きていくために震災後の町民の精神的支柱となりうる講話を考えている。

平成28年度には、広野の中世時代について、広野町史を編纂した福島県考古学会の渡辺氏から講義を受けた。ふるさとを強制的に離れた経験を持つ町民にとって、ふるさとの歴史について話を聞くことができたことは大変意義深いものであった。こ



渡辺氏の話に熱心に聞く参加者

の講座は受講者から好評で、次年度も続けての開催となっている。この他、地域の再生や生き方、防災・減災、介護などをテーマとしている。

講座の設定に当たっては、受講者が感想や意見・評価を記入するアンケートを講座ごとに実施し、次年度の計画に生かしている。また、より多くの意見をいただけるよう開校式でアンケートの趣旨を説明している。アンケートには、講座の満足感とともに次回に対する期待やより良い講座にするための意見等が多数記載されており、受講者の思いを大切にする取り組みがふるさと創生大学への所属感や学ぶことへの意識の高まりにつながっている。

バージョンアップで

多くの学びを

募集定員30名でスタートしたふるさと創成大学は、平成28年は、定員を超える36名の受講者となり、講座によっては、受講生以外の傍聴者もあるなど人気の講座となっている。また、男性の参加が半数以上となっており、50代を中心に20代から70代までの幅広い年齢層が参加している。

今年度は、より多くの方が参加できるように定員を100名とし、要望のあった高校生も参加できるようにした。また、町民以外の参加も可能とするなど開校の目的でもあった成人の学ぶ機会の実現を達成している。今後は、聞く講座から、学んだこ

とを生かして受講生が学びを作っていくことができるよう発展させていきたいと担当者は話す。



広野町のキャラクター「ひろぼー」

平成29年度

ふるさと創生大学教育計画

第1回 7月13日
「みちのく古代史から見た広野の立ち位置」
講師 渡邊一雄氏

第2回 8月30日
「新しい広場を作る ―福島のは可能か―」
講師 平田オリザ氏
劇作家・演出家

第3回 9月7日
「ほっとけ心のアツパレ介護」
講師 田辺鶴瑛氏 講師

第4回 10月5日
「生き方を考える ―今、なぜ『生き方塾』なのか―」
講師 下村満子氏
ジャーナリスト

男女共生センター初代館長

◎午後6時30分〜午後8時
◎場所 広野町公民館

問い合わせ先 広野町公民館
電話 0240-27-3244

町民以外の参加も可能な「県民カレッジ連携講座」となっています。興味のある方は、広野町公民館に確認をしてください。